

第2章 日本の地域的特色



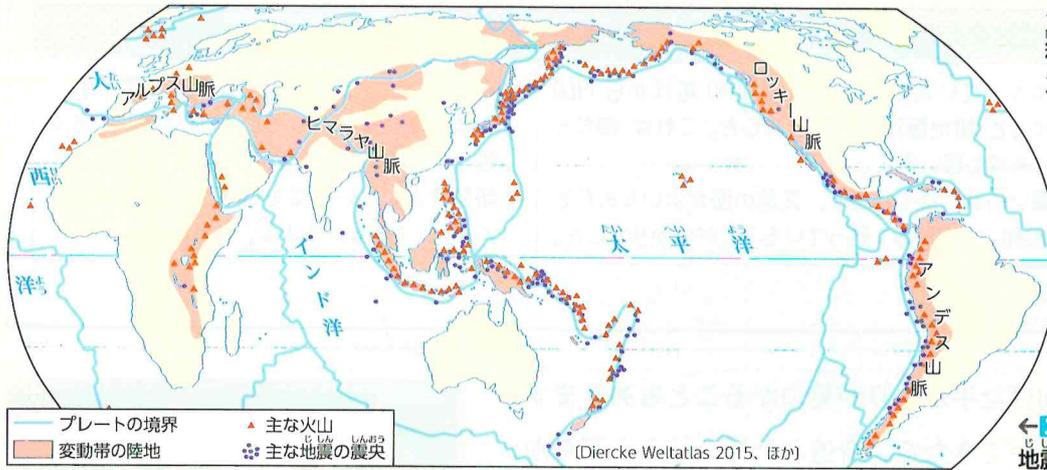
2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。



←1日本の最高峰、富士山(山梨県富士河口湖町、2017年11月) 富士山は現在も活動を続ける火山です。



↑2活発な火山の様子が見られる箱根の大涌谷(神奈川県箱根町、2022年11月)



←3世界の主な火山と地震の震央の分布

日本は、火山や地震がとても多い場所なんだね!



1 山がちな日本の地形

解説① プレート

地球の表面を覆う、厚さ100kmほどの硬い岩石のことで、十数枚に分かれたプレートは、1年間に数cmの速さで動いていて、プレートどうしがぶつかったり、ずれ動いたりしています。

① 高温の液体となった岩石のことで、

解説② 山地と山脈

山地は、いくつかの山がまとまっている所のことで、山脈は、山地のなかで山が特に細長く連なっている所のことで、



学習課題

日本の地形には、どのような特徴があるのだろうか。

地震や火山が多い日本列島

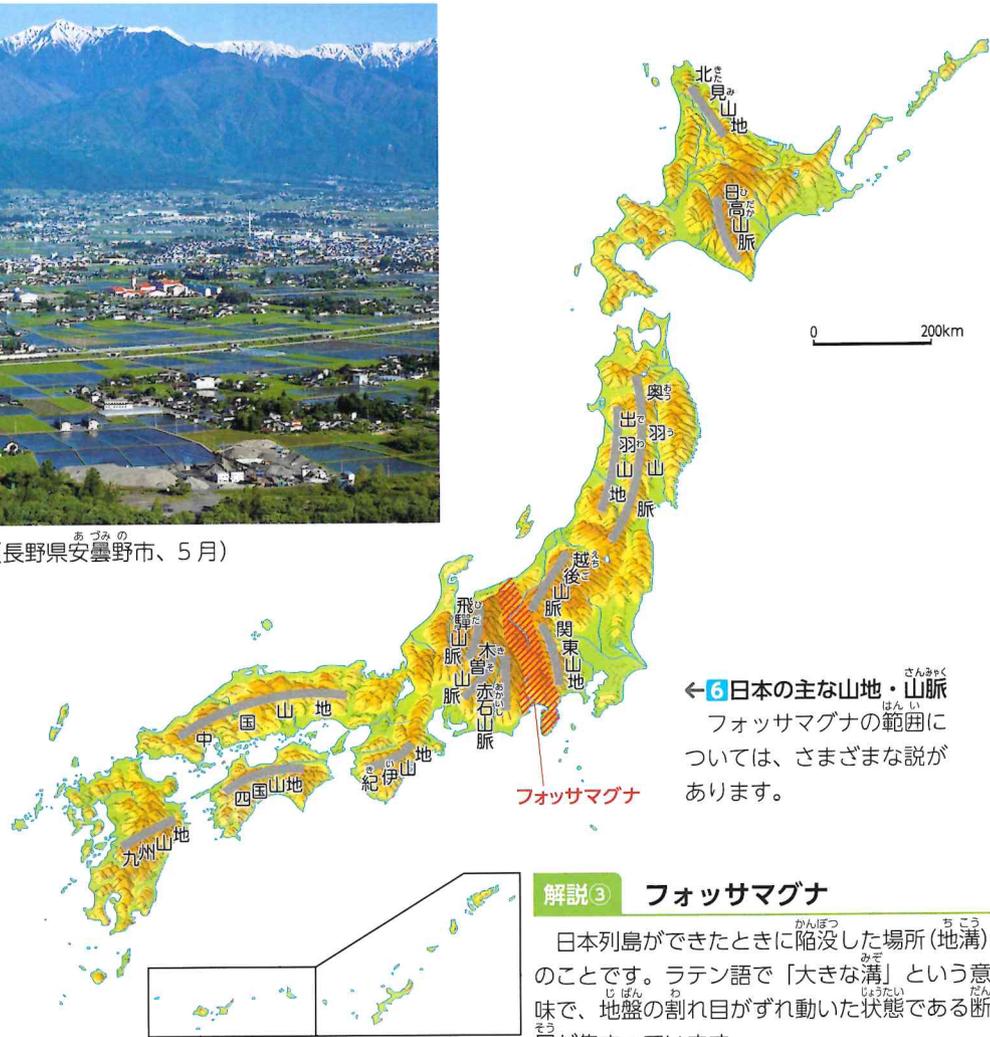
地球の表面には、土地の盛り上がりや沈み込みが活発に起こる場所があり、**変動帯**とよばれています。変動帯には、アルプス山脈、ヒマラヤ山脈などが連続するユーラシア大陸南部や、アンデス山脈、ロッキー山脈、日本列島、ニュージーランドなどの太平洋を取り巻く地域のように、高い山々が帯状に連なる所があります。変動帯は、プレートがぶつかったり、ずれたりする所にあり、プレートの境界付近では地震が多く発生しています。また、地下深くでマグマがつかられることから、火山活動が活発な地域も多くあります。変動帯にある日本は、四つのプレートがぶつかり合っていることから、世界のなかでも地震が多く、火山活動が活発な所となっています。



↑4 飛騨山脈と水田が広がる松本盆地(長野県安曇野市、5月)



↑5 登山客でにぎわう木曾山脈の山(長野県駒ヶ根市、8月)



解説③ フォッサマグナ

日本列島ができたときに陥没した場所(地溝)のことです。ラテン語で「大きな溝」という意味で、地盤の割れ目がずれ動いた状態である断層が集まっています。



↑7 フォッサマグナの西端の様子(新潟県糸魚川市、2021年) フォッサマグナを境にして、地形や岩石の特徴が大きく異なります。

日本列島の背骨をなす山地

日本列島は、太平洋側に突き出す弓のような形をしていて、その形に沿って背骨のように山

地や山脈が連なっています。世界の陸地に占める山地の割合は約25%であるのに対して、日本ではその割合が約75%もあり、国土の大部分は山がちです。山々は、古くから狩猟などの場となっただけでなく、人々が暮らす住居の材料となる木材を供給する役割も果たしてきました。また、そこで降った雨や雪は、川となって下流に住む人々の飲み水や農業用水として使われてきました。

本州の中央部には、3000m級の険しい山々からなる日本アルプス(飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈)があり、山々の美しい景観を楽しむために多くの人々が登山や観光に訪れます。これらの山脈の東側にはフォッサマグナがあります。フォッサマグナに着目して日本を地域区分すると、山地や山脈がほぼ南北方向に連なる東部と、ほぼ東西方向に連なる西部に分けることができます。



確認しよう

日本はどのような場所に位置しているのか、図3や地図帳で確認しよう。



説明しよう

日本の地形の特徴を、「変動帯」「フォッサマグナ」の語句を使って説明しよう。



↑1扇状地(山梨県甲州市・笛吹市、2019年9月) 山から運ばれた土砂によって、扇形の地形ができました。



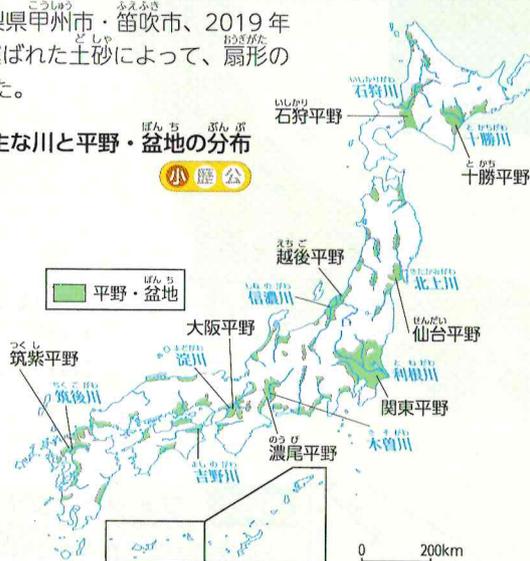
↑2三角州(三重県、雲出川河口、2020年11月)

対話 写真1・2は、それぞれどのような所でみられる地形なのか、話し合おう。

→3日本の主な川と平野・盆地の分布

小庭公

平野や盆地は、どのような所に分布しているのかな？



↑4台地(静岡県、磐田原、2020年10月)

2

川がつくる地形と 海岸や海洋の特徴

2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。



学習課題

日本の平野や海岸、日本を取り巻く海には、どのような特徴があるのだろうか。

川がつくる地形と 人々の生活

日本には、たくさんの平野や盆地があります。これらは、山々から流れ出す川が、上流で山を削り、その際に出た土砂を川の流れに乗せて下流まで運ぶことによってつくられました。

川が山間部から平野や盆地に流れ出した所には扇状地がみられます。その中央部は、粒の大きい砂や石からできていて水が地下にしみこみやすいため、桃やぶどうなどの果樹園に利用されています。川の河口部にみられる三角州は、粒の小さい砂や泥からできていて水が地下にしみこみにくいため、昔から主に水田として利用されてきました。都市部では、住宅地として開発される所も多くなっています。

川沿いや海沿いの平地よりも一段高くなっている土地は台地といえます。台地の上は、水が得にくく水田には適さないため、畑などに利用されたり、住宅地として開発されたりしています。



↑5川の上流から下流にかけてみられる地形

p.224



↑6 海岸線が入り組んだリアス海岸(三重県、英虞湾、2018年6月)



↑7 滑らかな海岸線が続く砂浜海岸(千葉県、九十九里浜、2020年8月)

変化に富んだ日本の海岸

日本にはさまざまな海岸があり、その多くは、山地が海に迫った海岸になっています。なかでも、

小さい岬と湾が入り組んだ海岸はリアス海岸とよばれます。リアス海岸は、湾内の波が穏やかで水深が深いことから天然の良港として利用されることが多く、貝やわかめなどの養殖も盛んです。一方、長い砂浜が続く砂浜海岸やサンゴ礁に囲まれた海岸などもみられます。景色が美しいこれらの海岸は、観光資源にもなっています。

また、埋め立てをして港や工業地帯がつけられた所や、干拓によって農地が拡大された所などでは、コンクリートの護岸で直線状の海岸線となっている人工海岸も広くみられます。

日本を取り巻く海

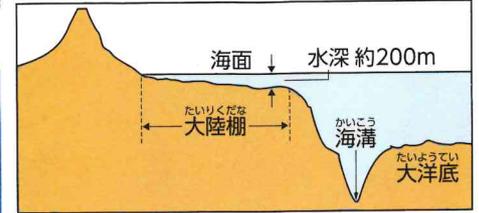
1万4000余りの島々から成り立つ日本は、海に囲まれた島国です。日本の近海の海底には、浅くて

平らな大陸棚が広がっており、太平洋側の大陸棚の先には、水深が8000mを超える海溝があります。

日本の近海は、暖流の黒潮(日本海流)と対馬海流、寒流の親潮(千島海流)などが流れているため、優れた漁場になっています。特に黒潮と親潮がぶつかる太平洋の沖合いは、異なる性質の海水がぶつかる潮目(潮境)となっており、海底の栄養分が巻き上げられてプランクトンが集まるので、世界有数の好漁場となっています。

解説① 大陸棚

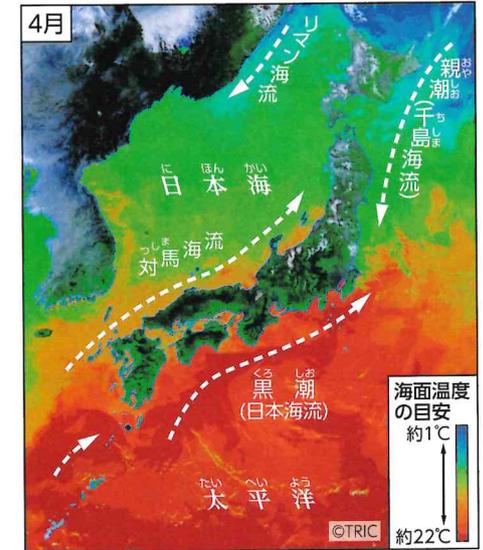
大陸の周辺にみられる、海岸から緩やかに傾斜しながら続く海底のことです。近年では、国際的な取り決めにより、大陸棚の範囲が定められています。



↑8 大陸棚の模式図

解説② 暖流と寒流

決まった方向に向かって移動する、一定の温度を保った海水の流れを海流といいます。暖流は低緯度から高緯度に向かって流れる、周辺の海水よりも高温な海流のことです。一方、寒流は、高緯度から低緯度に向かって流れる、周辺の海水よりも低温な海流のことです。



↑9 日本周辺の海流



確認しよう

川がつくる地形にはどのようなものがあるのか、図5や本文で確認しよう。



説明しよう

日本近海の様子を、「大陸棚」「海流」の語句を使って説明しよう。



←1「さっぽろ雪まつり」の会場で雪遊びを楽しむ子どもたち(北海道札幌市、2018年)

2月の北海道

同じ2月でも、北海道と沖縄県ではずいぶん様子が違うね!



←2花見を楽しむ人々(沖縄県那覇市、2023年)

🗨️ 対話 🗨️ 同じ2月でも、札幌と那覇の様子が違うのはなぜなのか、話し合おう。

2月の沖縄県

3 日本の気候

2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。



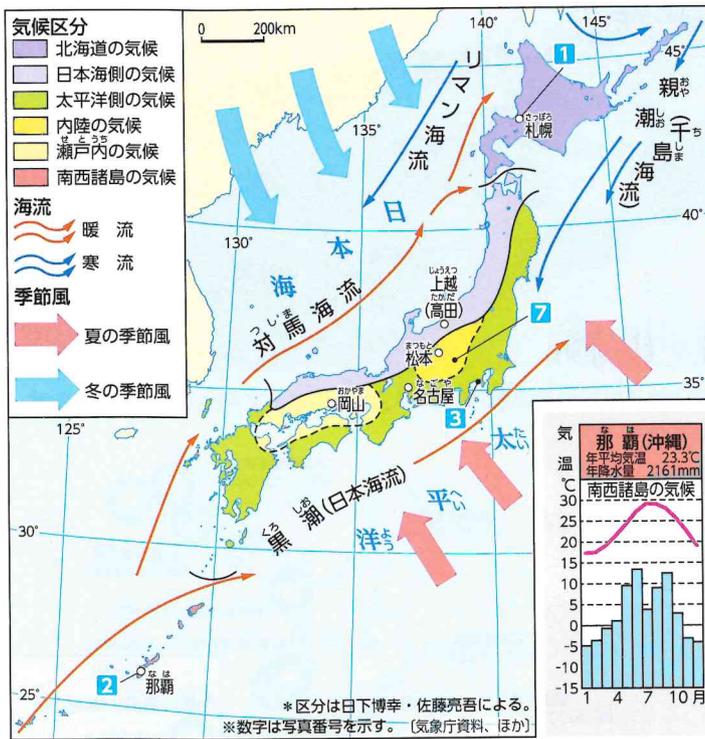
日本各地の気候には、地域ごとにどのような特徴があるのだろうか。

日本の気候の特徴

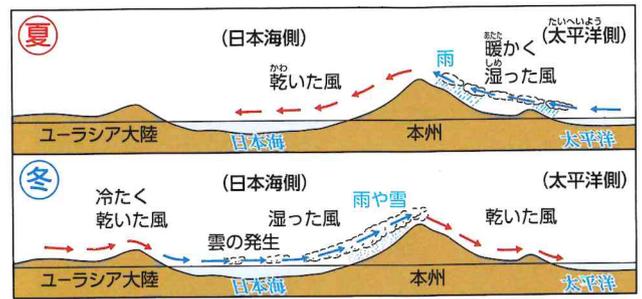
日本の気候は、世界の五つの気候帯に当てはめると、本州・九州・四国が主に温帯、北海道が亜寒帯(冷帯)に属し、四季の変化がはっきりしていることが特徴です。これは、季節風によって、夏には太平洋から暖かく湿った空気が運ばれ、冬にはユーラシア大陸から冷たい空気が運ばれることにより、日本列島は南北に長いことから、北と南では気温が大きく異なります。また、本州の中央部には山地や山脈が連なっているため、太平洋側と日本海側では、気温や降水量の分布に違いがみられることも特徴です。さらに、日本は梅雨の時期の長雨や台風、冬に降る雪などの影響で降水量が多いため、国土の約3分の2を森林が占めるなど緑豊かな国となっています。



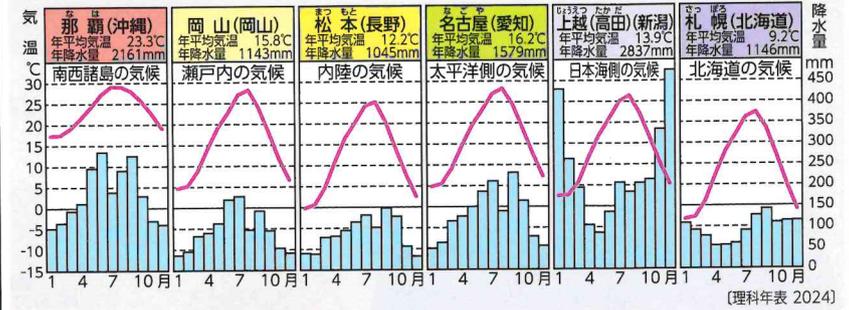
↑3梅雨の時期に咲くあじさい(神奈川県鎌倉市、2018年5月)



↑4 日本の気候区分 **小鹿 公**



↑5 降水量の季節変化が起こるしくみ 海の上を渡ってくる季節風は、海から蒸発した水分を含んでおり、この風が日本列島の山地にぶつかると、ぶつかった側に多くの雨や雪が降ります。



↑6 日本各地の雨温図

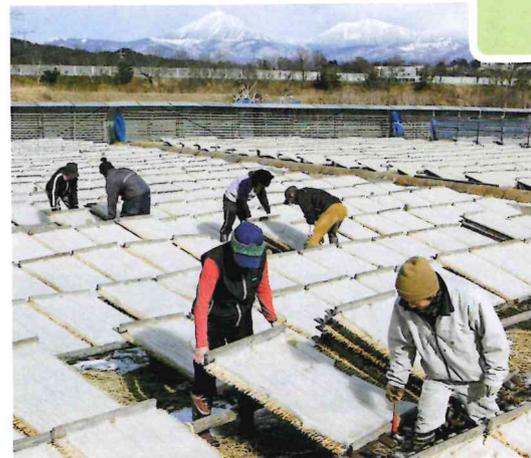
日本の気候区分

気候に着目して日本を地域区分すると、図4のように大きく六つの気候区に分けることができます。

北海道は、全般的に冷涼で、特に冬の寒さが厳しい気候となっています。北海道にははっきりした梅雨がなく、1年を通して降水量が少ないという特徴もあります。

本州・九州・四国は、大きく四つの気候区に分けることができます。日本海側は、冬に雨や雪が多いという特徴があります。これは、大陸から吹いてくる北西の季節風が、日本海の上を渡るときに水分を含んで雲をつくり、山地にぶつかって雨や雪を降らせるためです。太平洋側は、冬は季節風の風下になるため晴天の日が多く、夏は太平洋から吹く湿った季節風によって雨が多くなります。内陸部は、海から離れているため海から運ばれる水分が少なく、1年を通して降水量が少ない地域となっています。加えて、夏と冬の気温の差、昼と夜の気温の差が大きいことが特徴です。瀬戸内は、季節風が中国山地や四国山地にさえぎられるため、降水量が少なくなります。

南西諸島は、1年を通して雨が多く、台風の通り道にあるため秋の降水量も多いのが特徴です。夏の気温は本州とそれほど変わりませんが、沿岸に黒潮が流れているため冬でも温暖です。



↑7 内陸の気候を生かした寒天づくり(長野県茅野市、1月) 雨が少なく、昼と夜の気温差が大きい気候を生かして、屋外に干された寒天は凍結と解凍を繰り返し、徐々に乾燥していきます。

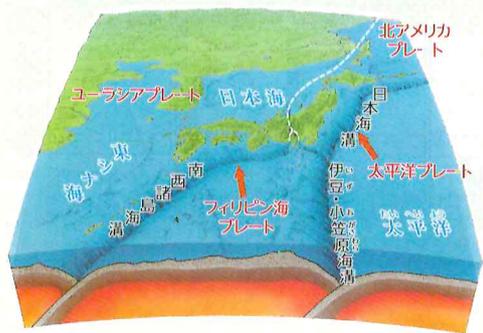
日本の六つの気候区の分布を、図4で確認しよう

太平洋側と日本海側とで気候が大きく異なる理由を、季節風と山地に着目して説明しよう。

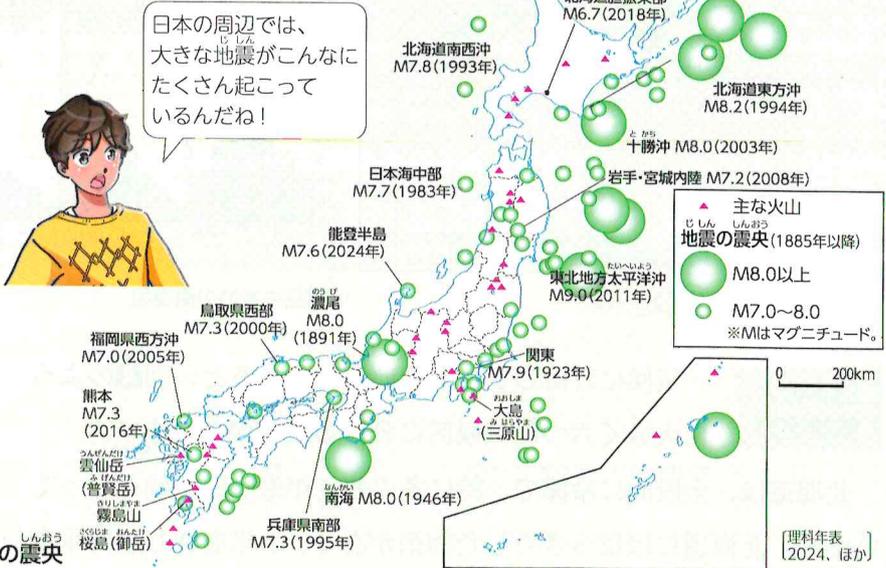


↑1 熊本地震で被害を受けた熊本城の石垣(熊本県熊本市、2016年)

↑2 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって発生した津波(岩手県宮古市、2011年)



↑3 日本列島周辺のプレート 日本列島の周辺には四つのプレートの境界が集中しているため、プレートどうしがぶつかり合う力によって地震が発生しやすくなっています。



→4 主な火山と地震の震央

4 日本のさまざまな自然災害

2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。



↑5 北海道胆振東部地震で生じた液状化(北海道札幌市、2018年) 液状化は、地震の震動により、水と砂を含む地面が一時的に液体のようになる現象です。

学習課題 日本で発生する自然災害は、地形や気候とどのような関わりがあるのだろうか。

地震と火山災害が多い日本 日本は、変動帯に位置しているため地震が多く、各地に分布する火山の活動も活発です。大地震が発生すると、地震の揺れによって建物が壊れたり、地すべりや液状化などが発生したりして大きな被害が生じることがあります。地震によって海底の地形が変形した場合には、津波が発生することもあり、2011年に起こった東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)では、沿岸部に大きな被害をもたらしました。

日本は、世界的にみても火山が多い国です。火山の周辺では、噴火により火山灰や溶岩が噴出したり、火砕流が発生したりして、人々の生命が危険にさらされることもあります。しかし一方で、火山は日本の美しい景観といった恵みも生み出しています。



↑6 噴火する霧島山(鹿児島県・宮崎県、2018年)



→7 火山の恵みと火山災害 火山は、温泉や、発電に利用できる地熱などの恵みももたらします。



↑8 さまざまな気象災害 土石流、地すべり、崖崩れをまとめて土砂災害といいます。小 鹿 公



↑9 大雨による浸水被害(岡山県倉敷市、2018年7月) 過去に被害を受けたことのない場所でも、大規模な気象災害の発生が増えています。

さまざまな気象災害

日本は、大雨や強風、雷などによる気象災害が多い国です。川沿いや海沿いの低地にたくさんの方が

住んでいることも、多くの気象災害が起こる原因となっています。

近年は、梅雨の時期の集中豪雨や、狭い範囲に集中して雨が降る

局地的大雨などにより、洪水や土石流が起こることが多くなっています。また、台風の通り道になることので多い地域では、大雨や強風、高潮などによる被害が発生することもあります。

一方、瀬戸内などでは、雨が十分に降らなかった年に水不足に悩まされることがあります。また、東北地方では、やませの影響で

夏に気温が上がらず、稲などの農作物に被害が出て冷害となることもあります。ほかにも、日本海側のように冬に雪が多く降る地域では、大雪で列車やバスが運休するなど交通網がまひしたり、建物への被害や雪下ろしによる事故が発生したりすることもあります。



↑10 大雪で動けなくなった自動車(福井県坂井市、2018年2月)



確認しよう

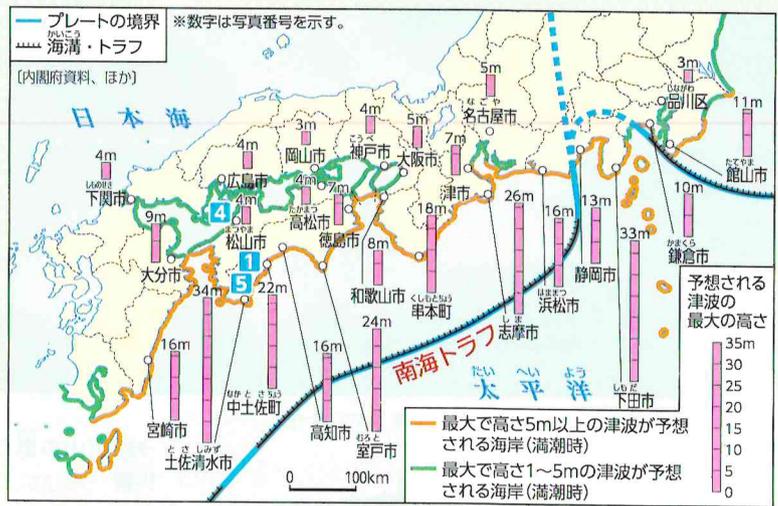
日本で発生する自然災害を本文などから五つ挙げよう。



説明しよう

身近な地域で発生する可能性のある自然災害を、地形や気候と関連づけて一つ説明しよう。

津波避難タワー



なぜ海の近くに高いタワーをつかったのかな？



↑2南海トラフの巨大地震で想定される津波の高さ

←1津波避難タワー(高知県中土佐町、2021年)

5 自然災害に対する備え

2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

学習課題 自然災害からの被害を防いだり減らしたりするために、どのような取り組みが行われているのだろうか。

防災・減災の取り組み 災害を引き起こす地震や豪雨、台風などの自然現象そのものを止めることはできません。日本では、これらの現象によって被害が及ぶのを防ぐ**防災**や、被害をできるだけ減らす**減災**のために、さまざまな取り組みが行われています。

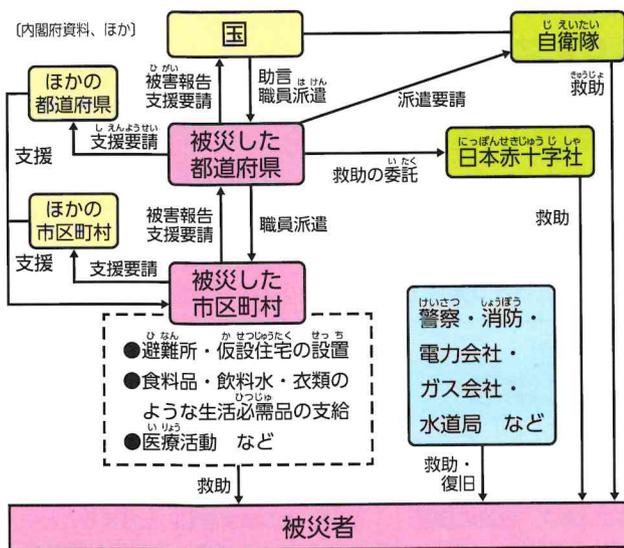
例えば、近い将来に発生が予測されている**南海トラフ**の巨大地震に備えて、建物や橋を地震の揺れに強くしたり、**津波**を防ぐ堤防をつくったりする対策が行われてきました。さらに、2011年に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)を教訓にして、津波からの避難場所となるタワーの建設や、日頃の防災教育、地震情報の伝え方の見直しなども進められています。

また、地震だけでなく気象災害に対する備えとして、ダムの建設や河川の堤防の整備を進めたり、災害の危険地域を指定して避難場所を決めたりする取り組みが行われています。近年では、災害の危険性が高まったときに、「高齢者等避難」「避難指示」「緊急安全確保」といった段階に分けて、避難を呼びかける情報が発表されるようになっています。

解説① 南海トラフ
海底の深い部分にある幅をもった溝で、海溝ほどの深さのない所をトラフといいます。南海トラフは、静岡県から宮崎県にかけての太平洋沖に位置しています。南海トラフでは、過去に東海地震・東南海地震・南海地震という三つの地震が繰り返し発生してきました。

地図帳活用
南海トラフ沿いで発生した過去の巨大地震を確認しよう。

解説② 津波と高潮
津波は、地震や火山活動に伴う海底の変動によって、大きな波が陸地へ押し寄せる現象のことです。高潮は、台風などの接近によって、海面の水位が上昇する現象のことです。



↑4救助を行う消防隊・警察・自衛隊の人々(愛媛県松山市、2018年7月) 大雨による土砂災害が発生した場所での救助の様子です。

↑3災害が発生したときに被災地を支援するしくみ **小橋公**

多くの都道府県や市区町村では、地震や河川の氾濫などによる被害を予測した**ハザードマップ**がつけられています。ハザードマップなどを通して、ふだんから身近な地域の自然環境の特徴や起こりやすい災害、避難場所や避難所を確認しておくことが重要です。

5 **災害発生時の対応**

もし災害が発生したときには、国や市区町村などの協力の下で、避難所・仮設住宅の設置、食料品や衣類などの生活必需品の支給、医療活動といった被災者への救助が行われます。被災した地域の人々だけでは救助や復旧が難しい場合は、ほかの地域からも消防隊や警察、自衛隊、海上保安庁など、多くの人が被災地に派遣されます。例えば、2018年に発生した平成30年7月豪雨(西日本豪雨)では、自衛隊や消防隊、ボランティアが県内外からたくさん駆けつけ、救助やがれきの撤去を行いました。このように大きな災害が発生した場合は、地域の枠を超えた協力体制が組まれています。

15 国や都道府県、市区町村などが災害発生時に被災者の救助や支援を行うことを**公助**といいます。しかし、災害発生時には公助に頼るだけでなく、自分自身や家族を守る**自助**や、住民どうしが協力して助け合う**共助**とよばれる行動をとることが求められます。そのためには、避難計画を立てたり、自分が住んでいる地域の避難訓練に参加したりして、災害発生時に、ほかの住民と協力してどのような行動をとるべきかを日頃から考えておくことが大切です。

未来に向けて **避難所での高齢者への支援** **防災**

災害で家を失った人や自宅に戻れない人などが、一時的に生活をする場所を避難所といいます。高齢者や障がいのある人が、避難所で生活することが困難な場合には福祉避難所が開設されることになっています。福祉避難所は、地震や火災などに対する安全性が確保されているとともに、手すりやスロープといったバリアフリーの設備が整った施設が指定されています。



↑5福祉避難所の設営訓練の様子(高知県黒潮町)

- 確認しよう** 防災・減災のために行われている取り組みを、本文から書き出そう。
- 説明しよう** 災害への備えに必要なだと考えられることについて、自助・共助・公助の語句を使って説明しよう。

アクティビティ に挑戦 **A**

自然災害から命を守ろう —災害の危険性と防災情報の活用—



ワークシートなど

見方・考え方

人間と自然の関わり
場所

学習 課題

日本は豊かな自然に恵まれている一方で、自然災害が多く発生します。ここでは、イラスト地図を通して発生する可能性が高い自然災害について理解し、ハザードマップなどの防災情報を活用して、いつ発生するか分からない自然災害に備えよう。

1 イラスト地図から自然災害の危険性を考えよう

TRY1

- あなたが図1の①～②にいるとき、どのような自然災害の危険性があるのだろうか。周囲の自然環境などに注目して、起こりうる自然災害を挙げよう。
- 対話 Q1 Q2 のような判断の分かれ道(クロスロード)で、あなたは YES と NO のどちらを選択するのだろうか。そのように判断した理由をグループで話し合おう。

Q1 YES or NO

あなたは**自宅**にいます。台風の接近に伴い、昼過ぎから雨が激しくなり、午後6時には気象庁から大雨・洪水警報が発表されました。しかし、地元の自治体からの避難指示が出ているかどうか、分かりません。この時点であなたは避難を始めますか？

Q2 YES or NO

結局、そのまま自宅にとどまることにしました。その後、雨の降り方がひどくなり、避難しようと考えましたが、暗くて自宅周辺の状況も分かりません。その際、あなたは自宅の2階に避難しますか？ それとも200mほど離れた**ビル**に避難しますか？

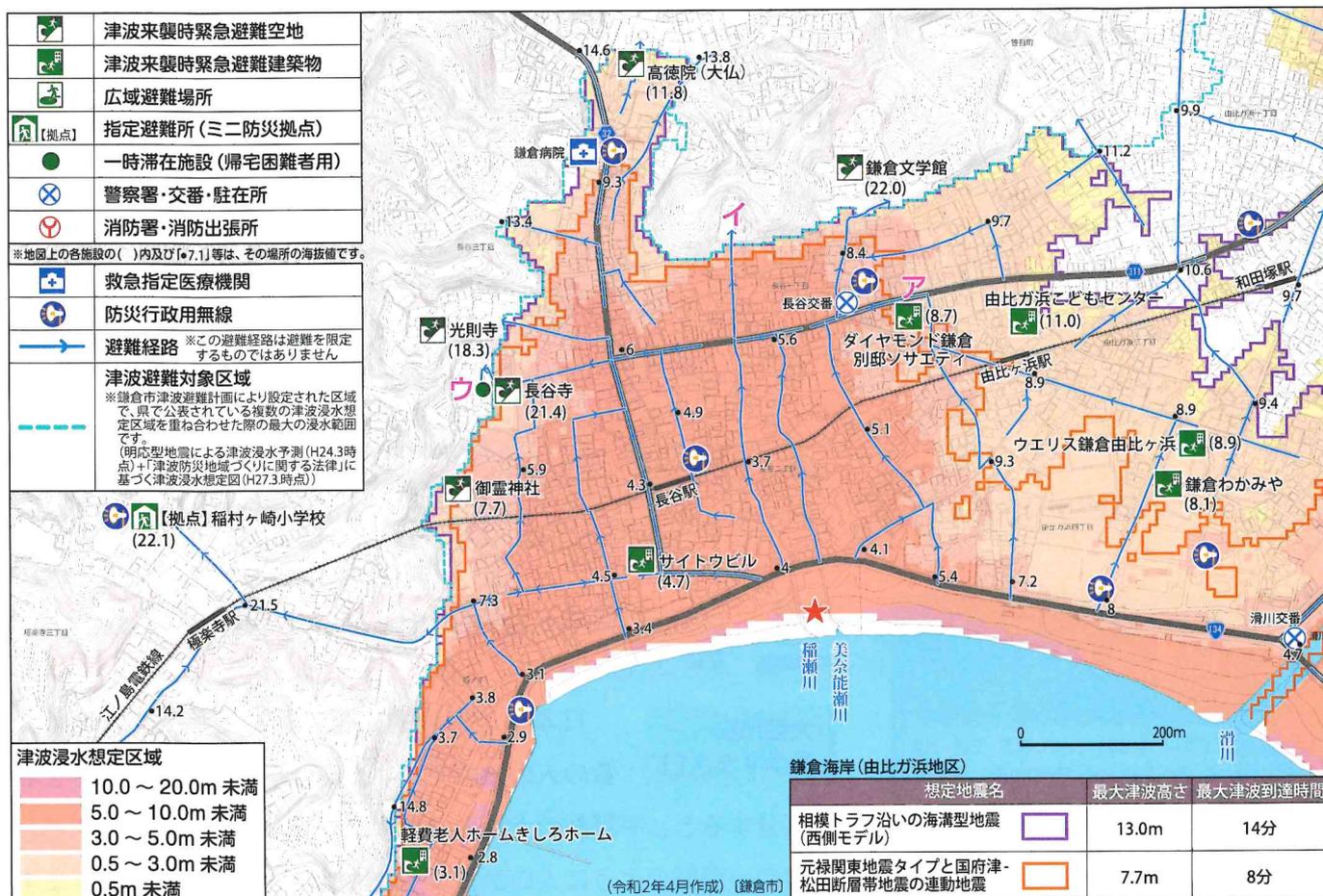


↑ 1 自宅や学校の周辺の様子を表した地図

2 ハザードマップを使って避難先を考えよう

TRY2

- 図2の津波ハザードマップの「津波浸水想定区域」を見ると、長谷駅は何m浸水すると予測されているのだろうか。
- あなたが図2の★の地点にいる時に、規模は分からないが津波発生を感じたら、ア～ウのどこに避難すればよいのだろうか。津波到達時間も参考に、避難先と避難ルートを考えよう。
- 対話 あなたの考えた避難先・避難ルートを発表しよう。そして、なぜその場所・そのルートを選んだのかも説明しよう。



↑2 鎌倉市の津波ハザードマップ 自然災害の多い日本では、多くの地域でハザードマップの作成と配布が行われています。また、「ハザードマップポータルサイト」では、全国のハザードマップに関する情報を得ることもできます。

3 あなたが暮らす地域で起こりうる自然災害に備えよう

TRY3

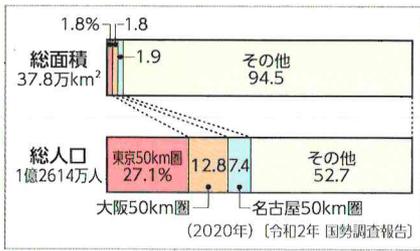
- 写真3のような街なかにある防災に関する情報を、あなたが暮らす地域で見つけよう。また、インターネットなどを使って、防災に関わる情報を入手しよう。
- あなたが暮らす地域のハザードマップを入手して、どのような自然災害の危険性があるのか、調べよう。
- 対話 2で分かった自然災害に対して、日頃からどのような備えができるのかを考え、グループで話し合おう。



←3 津波からの安全な避難を人々に促す取り組みの例 (神奈川県鎌倉市、2022年)



- 自然災害の発生の危険性を理解し、防災情報の入手方法やハザードマップの活用方法を身につけることができた。
- 根拠を明らかにし、自分の意見を表現できた。



↑1 日本に占める三大都市圏の面積と人口の割合



(2020年) [令和2年 国勢調査報告、ほか]

○ 政令指定都市



日本では、どこに人口が集中しているのかな？



(2023年) [住民基本台帳 人口・世帯数表]

↑3 都道府県別の老年人口の割合 小 歴 公

…対話… 高齢化が進んでいる地域を丸で囲み、図2と見比べてどのような関係があるのか、話し合おう。

6 日本の人口

2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

解説① としげん 都市圏

中心都市が、周辺の地域にさまざまな影響を及ぼす範囲のことです。中心都市に通勤してくる人が住んでいる範囲など、市区町村の境界を越えた範囲であることが一般的です。

解説② せいれいしていとし 政令指定都市

人口50万以上で、政令によって都道府県並みの特別な権限をもっている大都市のことです。指定を受けると、税金の使いみちなどを独自に決めたり、国と直接交渉したりすることができます。2022年現在、全国で20の市が指定され、それぞれの市のなかに区が設置されています。



学習課題

日本の人口分布や人口構成には、どのような特徴があるのだろうか。

大都市に集中する人口

日本の人口は約1億2541万で、世界でも有数の人口大国です。人口分布に着目して日本を地域区分すると、平野部の大都市のように人口が集中している地域と、農村や山間部のように人口がまばらな地域に分けることができます。

人口が集中している地域は、主に東京・大阪・名古屋を中心とする三大都市圏や政令指定都市です。このような地域には、大学や企業が多いことから、高度経済成長期には多くの人が農村などから移り住みました。人口が集中して過密となった都市の中心部では、住宅の不足や交通渋滞、ごみ処理の問題などが深刻となり、土地の価格も上昇しました。そのため、郊外にニュータウンなどの住宅地が開発され、都市の周辺部で人口が増えるようになりました。

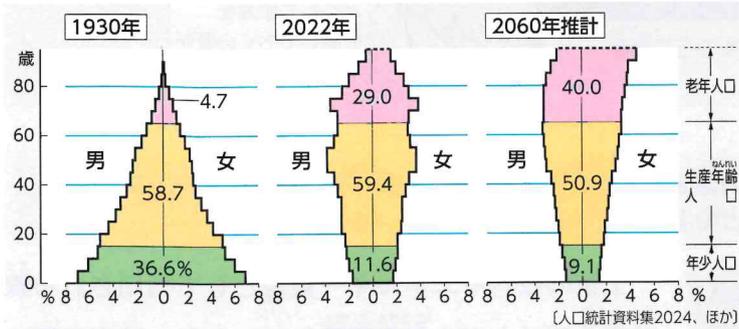
一方、若い世代を中心に都市部へ人口が流出し、過疎となった農村や山間部、離島などでは、学校や商店、病院、公共交通がなくなるなど、地域社会の維持が困難になっている所も増えています。こ

人口ピラミッドは、縦軸に年齢、横軸に各年齢層の男女の割合をとり、国や地域の人口構成を表したグラフです。年少人口(14歳以下)、生産年齢人口(15～64歳)、老年人口(65歳以上)に区分して作成すると、人口構成の特徴が読み取りやすくなります。

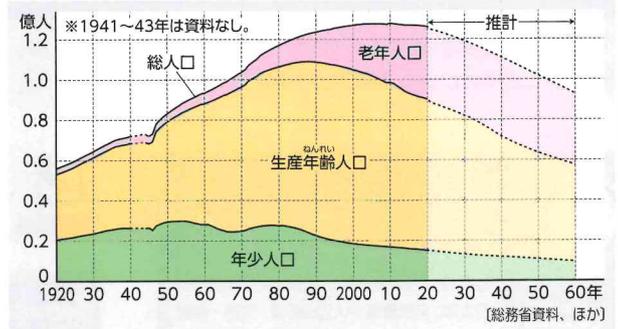


アニメーション

富士山型	つりがね型	つぼ型
<p>出生率・死亡率ともに高い型。アジアやアフリカの国に多く、出生率が高いまま、死亡率が下がると、人口が急増します。</p>	<p>出生率・死亡率ともに低い人口停滞型。西ヨーロッパの国に多くみられ、生産年齢人口が多いため、経済発展に有利です。</p>	<p>つりがね型に比べて、出生率がさらに低下している人口減少型。日本などにみられ、人口減少・高齢化が進みます。</p>



↑5 日本の人口ピラミッドの変化



↑6 日本の人口の変化

れに対して、都市部から移住しようとする人に住宅や仕事などの情報を提供して、過疎となった地域へ移住する人を増やし、地域を活性化させようとする取り組みが全国各地で進められています。

p.198, 245, 248

急速に進む
少子高齢化

日本では、子育てと仕事の両立が難しいことなどを背景に出生数が減少する少子化が進んでいます。

同時に、食生活の改善や医療技術の進歩によって寿命が伸びた結果、高齢化も進みました。現在では、総人口に対する老年人口の割合が約29%で、世界で最も高齢化が進んだ国の一つとなっています。

3 5

2

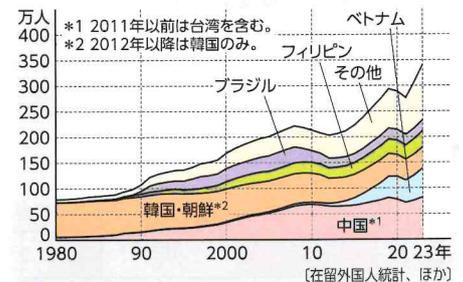
少子高齢化が進んだ日本では、2010年ごろから人口が減少する

時代に入りました。人口が減少すると、労働力が不足したり、医療や年金などの社会保障のしくみが維持できなくなったりすることが心配されます。そのため、子育てをやすく、誰もが健康な生活を送ることができるような環境の整備が進められています。また、不足する労働力を外国から受け入れるしくみなどを構築したことで、外国人の人口は増加しています。それに伴い、異なる文化をもつ人々が互いに暮らしやすいまちづくりが課題になっています。

p.243

p.243

- 1950年代後半から1970年代前半にかけて、さまざまな産業が著しく発展し、日本が急速に経済的に豊かになった時期をいいます。
- 14歳以下の人口を年少人口、15～64歳の人口を生産年齢人口、65歳以上の人口を老年人口といいます。



↑7 在留外国人数の変化

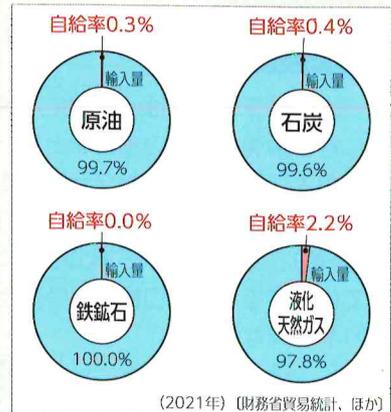
日本で人口が集中している地域を確認しよう

図2で確認しよう。

老年人口の割合が高く、高齢化が進んでいるのは、どのような地域なのか、説明しよう



↑1 石油備蓄基地 (鹿児島県鹿児島市、2015年) ここには、日本の石油消費量の約2週間分にあたる原油が貯蔵されています。



↑2 日本の資源自給率

どうして原油を貯蔵しておく必要があるのかな？

7 日本の資源・エネルギーと電力

2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

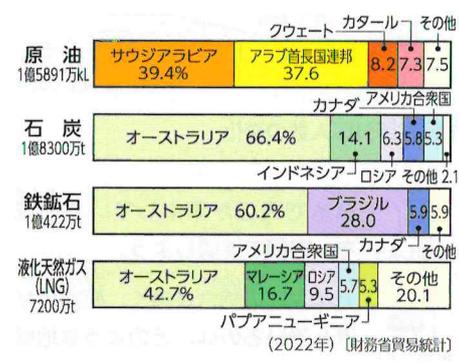
学習課題 資源を輸入に頼る日本では、持続可能な社会を実現するために、どのような取り組みが行われているのだろうか。

資源を輸入に頼る日本 工業の原料やエネルギー資源として利用される鉄鉱石や原油などを鉱産資源といいます。鉱産資源の分布は世界の特定の場所に偏っているのに対して、消費は中国やアメリカ合衆国、日本などの工業が盛んな国で多い傾向があります。



↑3 日本の石油備蓄基地

日本では、1960年代まで石炭や銅などの採掘が盛んに行われていましたが、埋蔵量が少なくなったり、採掘にかかる費用が増加したりしたため、価格が安くて品質のよい外国産の資源に頼るようになりました。現在、エネルギー資源としての利用が多い原油は主に西アジアの国々から、鉄鋼の生産に用いられる鉄鉱石や石炭はオーストラリアなどから、船を使って輸入しています。そのため、資源の利用に着目して日本を地域区分すると、鉱産資源を利用する工場や発電所、石油備蓄基地が多い沿岸部と、それらの少ない内陸部に分けることができます。また、近年は資源の調達をめぐる国際競争が激しくなっていることから、他国との共同開発などによって輸入先を分散させる努力が進められています。



↑4 日本で消費される鉱産資源の輸入先

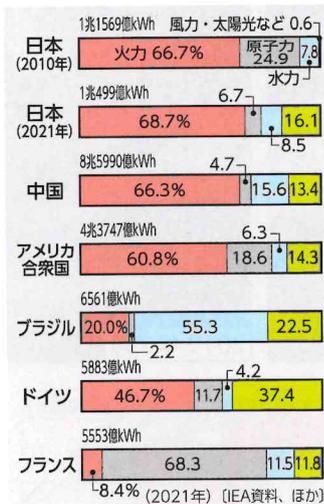
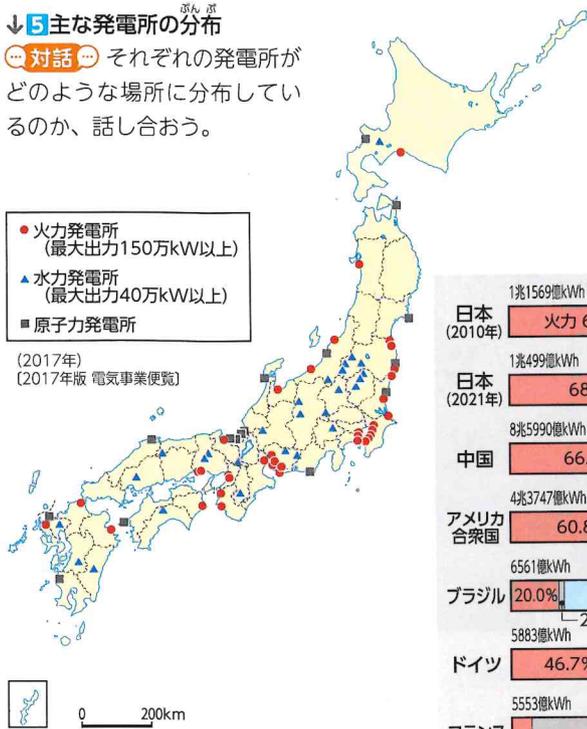
日本の電力 身近なエネルギーである電力にはさまざまな発電方式があり、発電量の内訳は国によって異なります。水資源に恵まれた日本では、かつては山地に建設されたダムを用いた水力発電が大きな割合を占めていましたが、電力消費量の増加に

↓5 主な発電所の分布

対話 それぞれの発電所がどのような場所に分布しているのか、話し合おう。

- 火力発電所 (最大出力150万kW以上)
- ▲ 水力発電所 (最大出力40万kW以上)
- 原子力発電所

(2017年)
(2017年版 電気事業便覧)



→6 主な国の発電量の内訳

伴い、原油や石炭、天然ガスを燃料にした火力発電や、ウランを燃料にした原子力発電が大きな割合を占めるようになりました。ところが、2011年の福島第一原子力発電所での事故をきっかけに、原子力発電の利用が見直されることになりました。また、大きな割合を占める火力発電は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素など温室効果ガスを多く排出します。そのため、近年は環境にやさしく、資源の輸入に頼らない水力、風力、太陽光、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーを利用した発電の拡大が目指されています。

持続可能な社会に向けて

地球温暖化の対策として、日本は再生可能エネルギーの活用とともに、省エネルギーの技術を生かした環境対策の実施など脱炭素社会に向けた取り組みを進めています。私たちの身の回りでは、消費電力の小さい家電製品や、走行時に排ガスを出さない電気自動車などの普及が進むとともに、リサイクルが積極的に行われています。例えば、不要になったパソコンやスマートフォンから希少な金属(レアメタル)を回収して再利用するなど、日本は環境に配慮した技術で世界に貢献しています。このように、世界の国々と協力しながら限りある資源を有効に活用し、将来の世代にわたって持続可能な社会を実現していくことが重要です。

巻頭1~2

地理 プラス+

再利用可能な資源が眠る都市鉱山

パソコンやスマートフォンなどの電子機器には、金やレアメタルなど、再利用可能な資源が含まれています。資源を含んだこれらの電子機器の廃棄物は、人口が集中する都市に多く存在するため、「都市鉱山」とよばれています。

都市鉱山に眠る金属を回収して活用できれば、輸入に頼っている貴重な資源を国内で循環できる可能性もあります。2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピックでは、都市鉱山からつくられたメダルが授与されました。

→7 回収されたパソコンを解体する様子(愛知県名古屋、2020年)



↑8 木くずを利用したバイオマス発電所(福島県会津若松市、2018年) バイオマス発電では、木くずや生ごみ、家畜の糞尿などを燃やし、発生した水蒸気やガスでタービン(羽根車)を回して発電します。

解説 レアメタル

埋蔵量が非常に少ない金属や、純粋なものを取り出すことが技術的・経済的に難しい金属の総称のことです。パソコンやスマートフォン、自動車などの生産に欠かせない金属で、例えば、リチウムはスマートフォンのバッテリーなどに使われています。

✓ 日本が鉱産資源を多く輸入している国を、図4で確認しよう。

💬 資源を輸入に頼る日本が、持続可能な社会を実現するために行っている取り組みを二つ説明しよう。



未来に向けて

地球温暖化への対策

おんだん たいさく
だつたんそ じつげん
～脱炭素社会の実現に向けて～

QR 他分野リンク

環境・エネルギー

7 2020年以降の目標



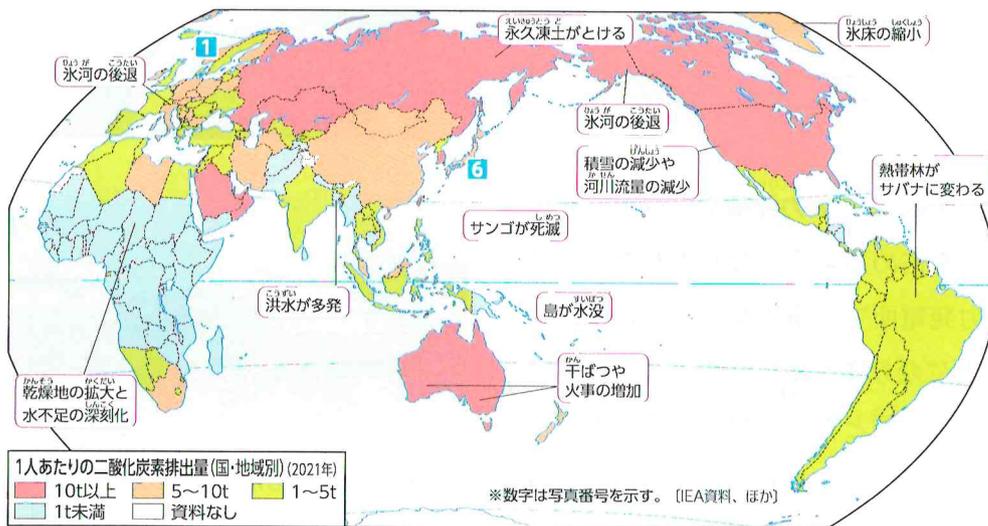
13 気候変動に具体的な対策を



1996年6月



2019年7月



↑1 氷河の後退(ノルウェー)

🗨️ 対話 🗨️ 2枚の写真を比較し、なぜ、氷河がこのような小さくなってしまったのか、話し合おう。

←2 1人あたりの二酸化炭素排出量と地球温暖化による主な影響

地図帳活用

国・地域別の二酸化炭素排出量を確認しよう。

1 今、地球では何が起きているのか？

● 進む地球温暖化とその原因

日本は、記録的な猛暑や豪雨などを毎年のように経験しています(→p.147)。これらの異常気象は、地球温暖化と関係があるといわれています。

地球温暖化とは、大気中の二酸化炭素などの温室効果ガスが増加し、それに伴い世界の平均気温が上昇することです。18世紀後半の産業革命以降、人間の活動が盛んになることで、石炭や石油などの消費量や、自動車からの排ガスなどが急速に増加しました。その結果、大気中にたくさんの二酸化炭素などが排出され、温室効果ガスの濃度が高まり、地球温暖化が進みました。世界の平均気温は、産業革命前と比べて1℃以上上昇したといわれており、今後さらに上昇すると予測されています(図3)。

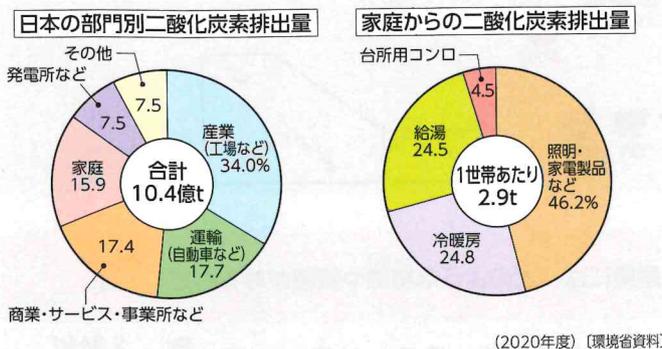
● 地球温暖化による影響

地球温暖化は、地球の環境にさまざまな変化をもたらします(図2)。例えば、気温が上昇すると、陸上の氷河がとけたり(写真1)、海水が膨張したりします。その結果、海面が上昇し、サンゴ礁でできた標高が低い島々などは、海岸侵食や水没の危機に直面しています(→p.121)。また、海水温の上昇は、サンゴの死滅を招くなど、生態系にも大きな影響を与えます。

地球温暖化は、地球規模のさまざまな課題とも深く関わっています。例えば、干ばつが起ると、作物が枯れたり(→p.86)、飲み水が不足したりします。そのことが原因で食料問題が生じ(→p.90)、飢餓や紛争などに発展することもあります。



↑3 世界の平均気温の変化(予測) 資料活用 今後の二酸化炭素の排出量の違いによる気温差に注目しよう。



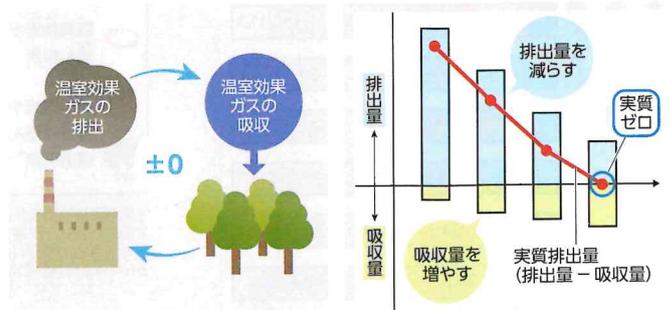
↑5 日本の部門別二酸化炭素排出量(間接排出量)と家庭からの二酸化炭素排出量 対話 脱炭素社会の実現に向けて、私たちに何ができるのか、話し合おう。

2 温室効果ガスの排出量を減らす取り組み

● 脱炭素社会とは？ カーボンニュートラルとは？

今後、二酸化炭素の排出量が現在の約2倍になった場合、2100年には、世界の平均気温が産業革命前よりも2.8～4.6℃上昇すると予測されています(図3)。2015年に採択された国際的な取り決めであるパリ協定では、産業革命前からの気温上昇を1.5℃までに抑えることが目標とされました。その目標の達成のためには、温室効果ガスの排出量を減らすことが必要です。

脱炭素とは、温室効果ガスの排出量をゼロにする取り組みのことで、それが実現された社会が**脱炭素社会**です。しかし、温室効果ガスの排出量をゼロにすることは現実的ではありません。そこで、温室効果ガスの排出量と植物などによる吸収量の総和をゼロにする**カーボンニュートラル**が目指されています(図4)。日本は、2050年までにカーボンニュートラルを達成するという目標を掲げています。



↑4 カーボンニュートラルのしくみ 温室効果ガスの排出量と吸収量の総和を実質ゼロにすることです。炭素を意味するカーボンと中立を意味するニュートラルを組み合わせると、カーボンニュートラルといいます。

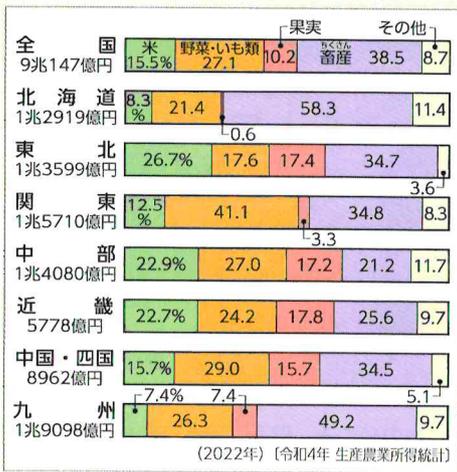


↑6 水素を燃料として走る燃料電池バス(下)と水素を補給する様子(上) (東京都江東区、2020年)

● 日本の取り組み

日本は、年間で10億tを超える二酸化炭素を排出しています。発電に伴う二酸化炭素の排出量を、実際の電力の消費者の排出量とみなすと、発電所としての排出量は1割もありません(図5)。しかし、これを電力の生産者の排出量とみなすと、発電所だけで4割を占めます(2020年度)。

日本は発電の多くを火力発電に頼っているため、再生可能エネルギーによる発電を増やそうとしています(→ p.154～155、281～282)。自動車では、二酸化炭素の排出が少ないハイブリッドカーやガソリンを使わない電気自動車の普及を促しています。また、新たなエネルギー源として水素が注目されており、水素を燃料とする燃料電池自動車の実用化も進められています(写真6)。カーボンニュートラルの達成に向けて、私たちができる取り組みについて考え、実践していくことが求められています。



↑ 1 地方別の農業産出額の内訳

🗨️ **対話** それぞれの地方の農業の特徴を話し合おう。



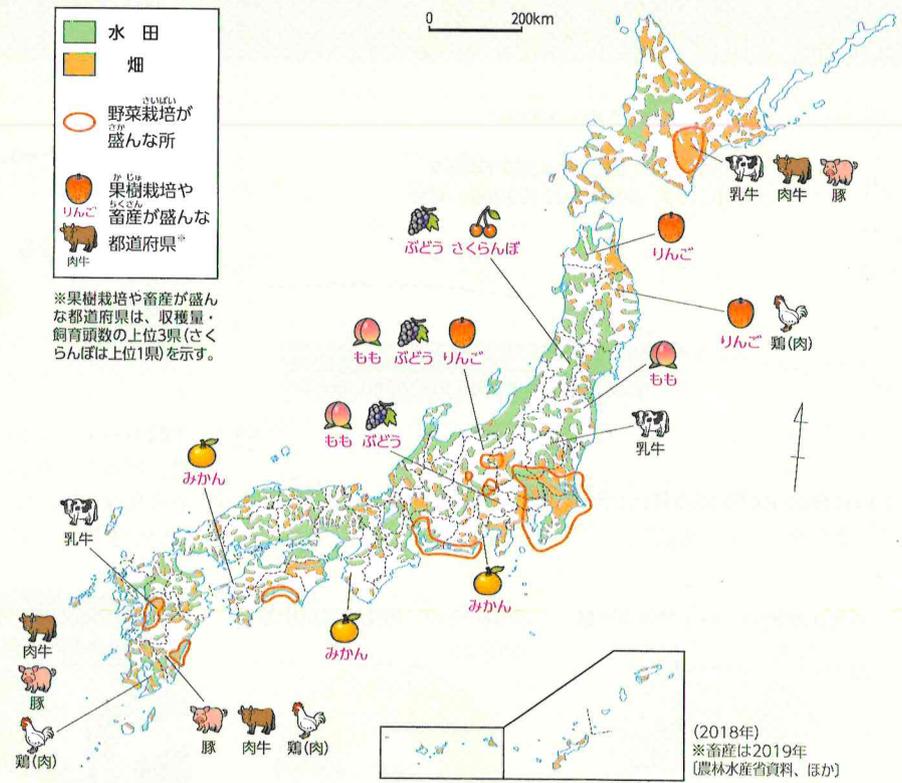
日本のどの地域でどのような農業が盛んなのかな？

→ 2 日本の農業地域

小園 公



※果樹栽培や畜産が盛んな都道府県は、収穫量・飼育頭数の上位3県(さくらんぼは上位1県)を示す。



(2018年) ※畜産は2019年 (農林水産省資料、ほか)

8 日本の産業

2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

解説① 促成栽培と抑制栽培

促成栽培は価格が高い時期に出荷するため、野菜などの出荷時期を早める栽培方法のことです。抑制栽培は、促成栽培とは反対に出荷時期を遅らせる栽培方法のことです。



↑ 3 日本の漁業部門別漁獲量と輸入量の変化

資料活用 大きく減少した漁業部門と増加した漁業部門に注目しよう。

学習課題 日本の産業には、どのような特徴や課題があるのだろうか。

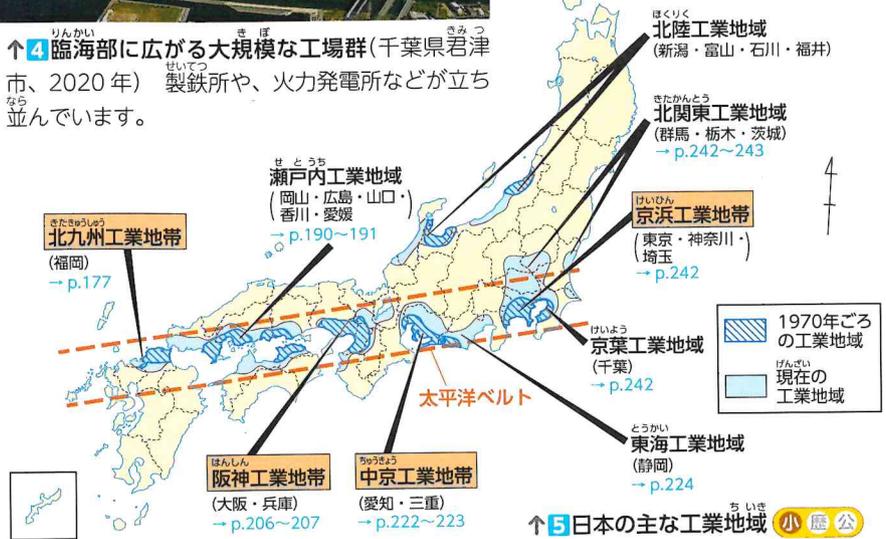
日本の産業分類 日本の産業は、農業・林業・漁業の**第1次産業**、工業や建設業などの**第2次産業**、商業やサービス業などの**第3次産業**に分類されます。産業に着目して日本を地域区分すると、第1次産業が盛んな農村部と、第2次産業・第3次産業が盛んな太平洋沿いの都市部に分けることができます。

日本の農業・林業・漁業 農業は、大きく稲作・畑作・畜産に分けることができます。稲作は、雪どけ水が豊富な東北地方や北陸の平野部で盛んです。鮮度が求められる野菜や果実をつくる畑作においては、大都市の周辺で**近郊農業**が行われています。また、大都市から離れた所には、高速交通網を生かして**促成栽培**や**抑制栽培**が盛んな地域もあります。産出額が最も多い畜産は、北海道地方や九州地方を中心に大規模に経営する農家が多いですが、飼料のほとんどは輸入に頼っています。近年、海外からの安い農産物の輸入が増えることで、**食料自給率**が低下する問題も生じています。

森林の多い日本では、かつて林業は主要な産業でしたが、後に安価な木材の輸入が増えたことで低迷しました。しかし、近年は木材



↑4 臨海部に広がる大規模な工場群(千葉県君津市、2020年) 製鉄所や、火力発電所などが立ち並んでいます。



地域	機械	鉄鋼	化学	食品	その他
全 国	43.2%	14.3	20.0	12.5	9.0
292兆7203億円	12.9	17.4	12.9	4.8	5.7
中京工業地帯	63.5%	10.2	11.6	13.7	0.7
46兆7324億円	13.6	39.7	10.2	11.6	13.7
京浜工業地帯	43.7%	10.3	22.1	12.9	10.5
35兆8427億円	12.4	19.0	12.3	10.3	22.1
阪神工業地帯	36.9%	21.0	21.4	11.7	7.8
30兆4966億円	11.3	8.0	17.6	21.0	21.4
瀬戸内工業地帯	30.2%	20.5	30.3	8.1	18.8
29兆7566億円	15.5	8.8	20.5	30.3	8.1
北関東工業地帯	42.2%	14.9	18.1	16.4	7.9
28兆5219億円	11.0	15.7	15.5	14.9	18.1
東海工業地帯	49.6%	7.6	18.8	13.6	9.7
15兆9235億円	15.9	23.9	9.8	7.6	18.8
京葉工業地帯	10.7%	23.0	44.0	15.0	7.1
12兆2117億円	3.5	0.6	6.6	23.0	44.0
北九州工業地帯	44.8%	8.5	18.3	13.7	13.6
8兆7374億円	6.1	30.2	8.5	18.3	13.7

(2021年) (2022年 経済構造実態調査)

↑6 主な工業地域の工業出荷額の内訳

解説② 沖合漁業と遠洋漁業

沖合漁業は、陸地から離れた沖合いで行う漁業のことです。遠洋漁業は、沖合いよりも遠く離れた海域で行う漁業のことです。漁の期間が1年以上にわたる場合もあります。

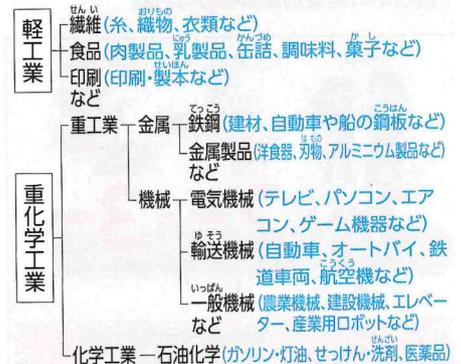
の輸入が不安定なこともあり、国内の林業が再注目されています。

暖流と寒流がぶつかり世界有数の好漁場である日本の近海では漁業も盛んです。かつては沖合漁業や遠洋漁業が中心でしたが、近年は人工的に育てる養殖業や栽培漁業も盛んになっています。

日本の工業

日本の工業は、繊維工業などの軽工業から始まり、第二次世界大戦後には、輸出や輸入に便利な臨海部に製鉄所や石油化学コンビナートなどが建設され、太平洋ベルトとよばれる地域で重化学工業が発展しました。

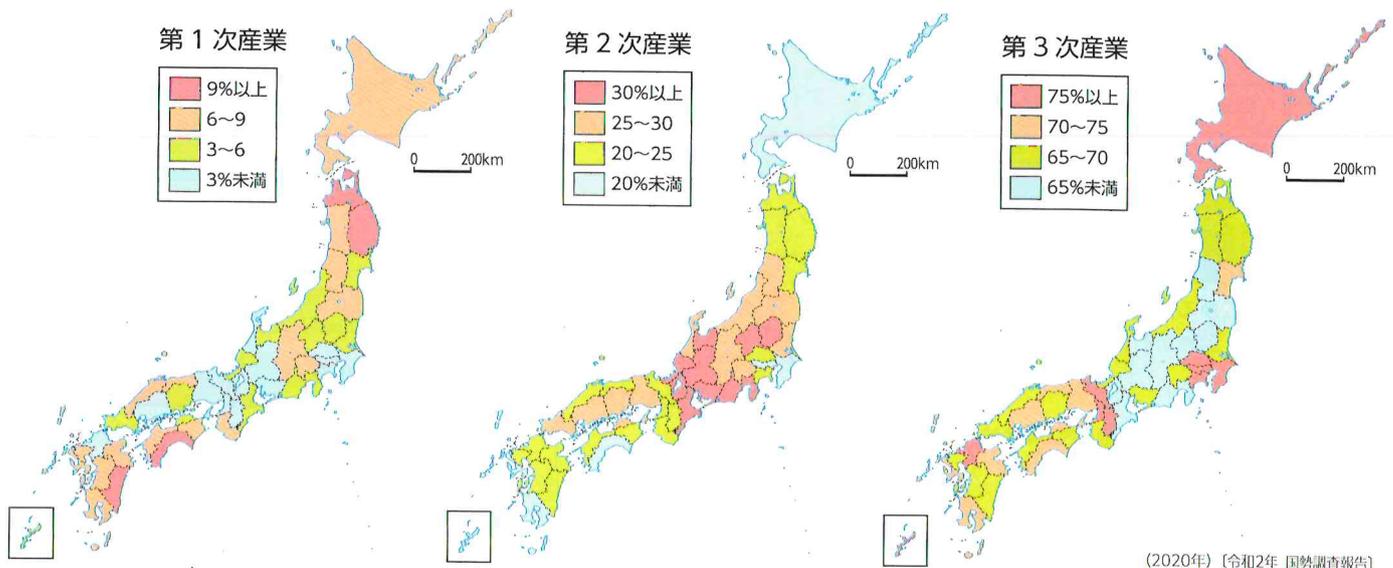
1970年代以降は、自動車などを製造する輸送機械工業や、テレビなどを製造する電気機械工業などの組み立て型の工業が発展し、高速交通網の発達によって、内陸部の高速道路沿いや空港周辺にも新しい工業地域が形成されました。しかし、1980年代に貿易摩擦が生じると、日本企業はアメリカ合衆国など海外に工場を移すようになりました。また、賃金の安い労働力や新たな市場を求めて、中国や東南アジアにも日本企業の工場が進出しました。このような変化によって、一部の工業では国内の生産が衰退し、産業の空洞化が問題となりました。近年は、高度な知識と技術を使った先端技術産業(ハイテク産業)などに活路を見いだそうとしています。



↑7 工業の分類と主な製品

解説③ 貿易摩擦

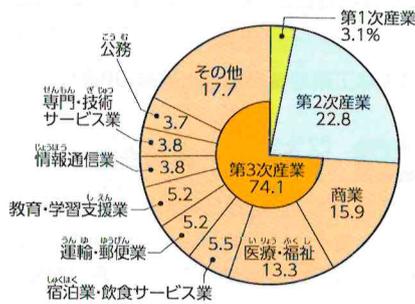
輸出と輸入の不均衡をめぐって、関係国間で発生する問題のことです。例えば、1980年代には、日本から輸入した自動車がアメリカ合衆国でたくさん売れたので、アメリカ合衆国の自動車メーカーは生産を減らさなければならなくなり、多くの失業者が出ました。



(2020年) [令和2年 国勢調査報告]

↑ 1 産業別人口に占める第1次産業、第2次産業、第3次産業の割合

🗨️ 対話 🗨️ 産業ごとに割合が高い地域に着目して、どのような分布の特徴があるのか、話し合おう。



(2021年) (総務省資料)

↑ 2 日本の産業別就業者数の内訳



↑ 3 6次産業化とは

確認しよう 稲作や畜産が盛んな地域、工業が盛んな地域をp.158図2やp.159図5、地図帳で確認しよう。

説明しよう 第3次産業の割合が高い地域の特徴を説明しよう。

日本の商業・サービス業

さまざまな業種によって構成される第3次産業には、小売業や卸売業などの商業や医療・福祉、

宿泊・飲食、教育などのサービス業があります。近年の情報通信技術(ICT)の発達によって、ソフトウェアの開発や映像の制作など、情報や通信に関連する業種が成長しています。また、急速な高齢化に伴って、医療・福祉分野で働く人が増えています。さらに、旅行や娯楽の需要が高まり、多くの業種が関連する観光産業も成長しました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で、人やモノの移動が大幅に制限され、観光産業などは大きな打撃を受けました。

第3次産業の割合は、人口が多く経済活動が活発な東京や大阪を中心とする大都市圏や、観光産業が盛んな北海道や沖縄県で、特に高くなっています。

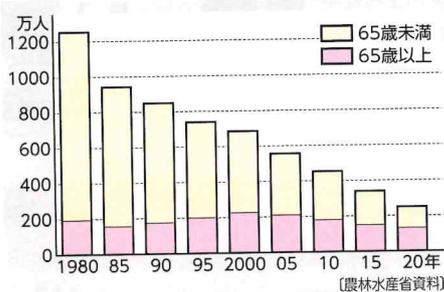
変化する日本の産業

1950年代までは第1次産業が盛んでしたが、経済成長とともに工業が発達し、第2次産業の割合が大きく増加しました。さらに、生活が豊かになり人々の好みが多様化すると、モノだけでなく旅行や飲食などのサービスを提供する第3次産業の割合が増加しました。現代では、仕事をもつ人の約4分の3が第3次産業で働いています。一方で、農業や漁業などの第1次産業の就業者が、食品加工などの第2次産業、流通・販売などの第3次産業にも取り組み、商品の価値を高める「6次産業化」といった、新しい産業の動きも生まれています。

3 巻頭1、p.259

近年、海外の安い農産物の輸入が増えたことなどで、農業の経営は不安定さを増しています。また、農業に就く人の7割が65歳以上の高齢者で、後継ぎも不足するようになりました。さらに、農業を辞める人が増えたことで、過疎地域(→p.198)を中心に、使われなくなった農地の荒廃なども深刻な問題になっています。

これに対して、都市部から農村部に移住して農業を始める若者を増やすために、農業技術を学ぶことのできる研修の実施や住宅補助金の支援などが各地で行われています。また、個人の農家によるインターネットを使った農作物の販売や、質の高い日本の農作物や畜産物の海外での販売も増えています(→p.175、193、259)。ほかにも、新しい農業の試みとして、人手不足の解消や作業負担の軽減のために、情報通信技術(ICT)やロボット技術などの先端技術の活用が進んでいます。



→4 農業従事者数の変化

資料活用 65歳未満の従事者数の変化に注目しよう。



↑5 空気・水・光などが管理された「植物工場」(佐賀県佐賀市、2021年) 少子化で廃校となった校舎を利用して、室内で野菜を栽培しています。



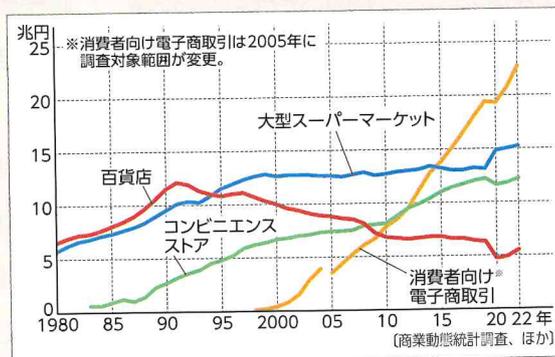
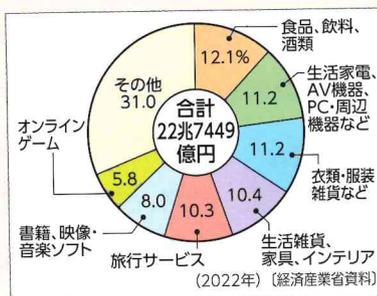
↑6 先端技術を活用した「スマート農業」(兵庫県丹波篠山市、2019年) 人工知能(AI)で害虫が発生した箇所を解析し、無人航空機(ドローン)がその場所に自動的に農薬を散布しています。

電子商取引の急増と買い物の変化

商業が盛んな場所は、かつて都市中心部の駅前にある商店街や百貨店でした。しかし、1970年代ごろから自動車による買い物が一般的になると、郊外の主要な道路沿いに広い駐車場を備えた大型のショッピングセンター(→p.235)が進出するようになりました。その結果、古くからあった商店街が衰退し、自動車を利用しない人の買い物が不便になっている例が増えています。

近年では、生活時間の変化や情報通信技術(ICT)の発達によって、買い物をする手段も多様化しています。例えば、コンビニエンスストアは24時間営業の店舗を全国各地に展開しています。また、インターネットを使って商品やサービスを売買する電子商取引は、いつでも、どこでも利用できることから急速に普及しています。電子商取引を利用すれば、自動車を利用しない人や、離島や農村に住む人なども買い物ができるため、今後さらに取引額が拡大していくと考えられています。

→7 消費者に向けて行われる電子商取引の取引額の内訳



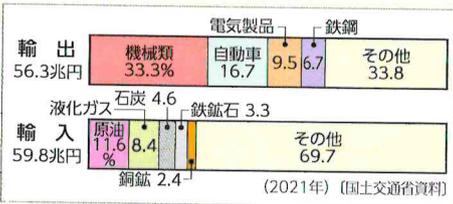
↑8 小売店での販売額と電子商取引の取引額の変化



↑9 インターネットを使って商品を販売する会社の物流センター(神奈川県川崎市、2018年)



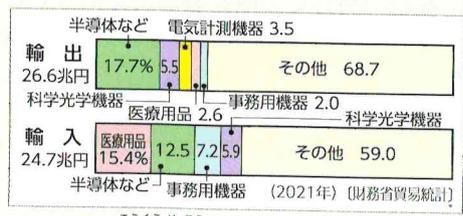
↑1 コンテナの積み降ろし(東京都江東区、2022年)



↑3 日本の海上輸送貨物



↑2 航空貨物の積み降ろし(千葉県、成田国際空港、2021年)



↑4 日本の航空輸送貨物



9 日本の交通網・通信網

2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

学習課題 交通網や通信網が発達したことで、地域間の結びつきはどのように変化したのだろうか。



↑5 日本人の海外旅行者数と日本を訪れる外国人旅行者数の変化

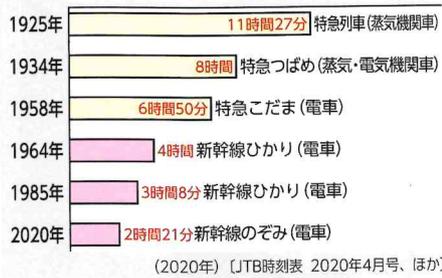
交通網による世界との結びつき 空や海の交通網の発達により、現代の世界は国境を越えた人やモノの移動が活発になっています。周囲を海で囲まれた日本では、原油などの資源を輸入したり、自動車などの重い製品を輸出したりする場合には、大量に安く輸送できる船舶が利用されています。一方で、軽量で価格の高い半導体や、野菜や生花などの生鮮品は、航空機で運ばれます。

日本と世界各地との人の移動は、航空路線の拡大に伴って増えてきました。仕事や観光で日本から海外へ出かける人が増えただけでなく、2010年ごろからは、中国や韓国などから日本を訪れる外国人の旅行者が急増しました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人旅行者数は大きく減少しましたが、今後は再び増加が見込まれます。商業や観光産業の活性化が期待されるとともに、十分な宿泊施設の供給や外国語への対応などが課題となっています。

地図帳活用

- ①日本の高速道路網を確認しよう。
- ②東京から国内各地への移動にかかる時間は、鉄道の発達によってどのように変化したのか、確認しよう。

交通網の整備と生活の変化 日本では高度経済成長期以降、新幹線や高速道路、空港の建設が進み、都市間を結ぶ高速交通網が整備されてきました。これによって、国内の主な都市間の移動にかかる時間は大幅に短縮されました。東京への移動手段に着目



↑6 鉄道を利用した東京～大阪間の移動時間の変化



↑7 新幹線と主な航空路 (小 鹿 公)

して日本を地域区分すると、航空機の利用が多い地域と鉄道や自動車の利用が多い地域に分けることができます。

日本では、大都市圏内の通勤・通学に鉄道がよく利用され、中距離の移動にも新幹線などの鉄道が多く利用されています。道路網が整備され、自家用車が増えたことにより、全体では自動車による輸送の割合が高くなってはいますが、経済が発展したほかの国々と比べると、鉄道による旅客輸送の割合が高いという特徴があります。

通信網の発達と生活の変化

現在では、パソコンやスマートフォンなどの情報通信機器が普及し、通信ケーブルや衛星通信の整備が進んだことによって、世界中の人々と情報の交換や商品の取り引きが瞬時にできるようになりました。

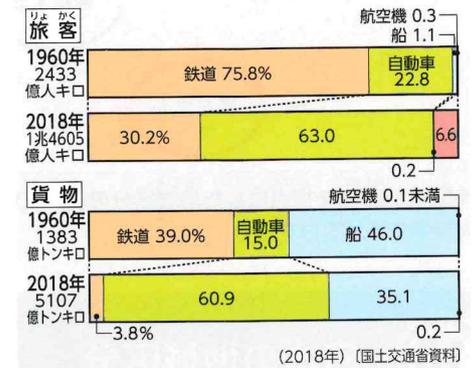
高速通信網が整備された日本では、インターネットが広く普及しています。これによって、都市部から離れた農山村や離島でも、日本各地の商品を購入したり、遠くにいる医師の診療を受けたりすることができるようになりました。このように、情報通信技術(ICT)の発達は人々の生活を豊かにする一方で、ICTを利用できない人との間では、情報格差が生まれています。

高速通信網が整備された日本では、インターネットが広く普及しています。

これによって、都市部から離れた農山村や離島でも、日本各地の商品を購入したり、遠くにいる医師の診療を受けたりすることができるようになりました。このように、情報通信技術(ICT)の発達は人々の生活を豊かにする一方で、ICTを利用できない人との間では、情報格差が生まれています。



↑8 外国人旅行者向けの観光案内所(東京都、東京国際(羽田)空港、2019年)



↑9 国内輸送の内訳の変化

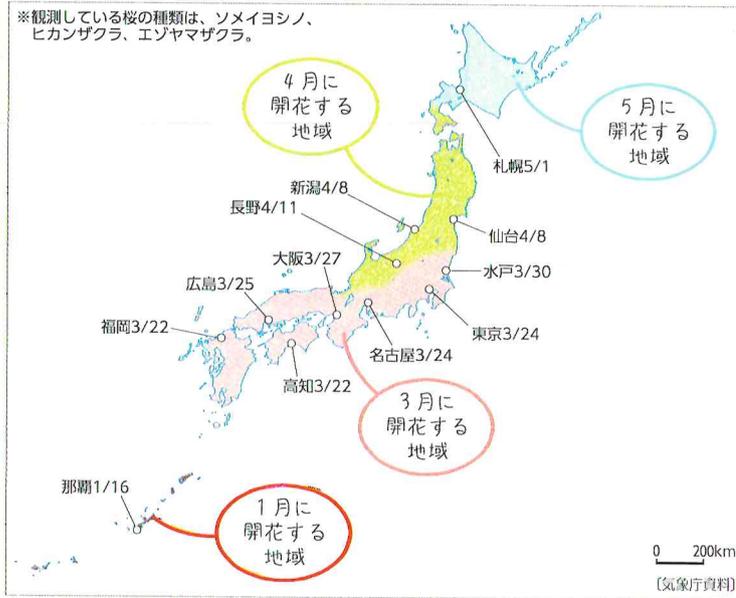


↑10 オンライン診療の様子(岩手県北上市、2022年) 看護師が医療機器を載せた車で患者の家まで向かい、病院にいる医師がインターネットを通して遠隔で診察します。(小 鹿 公)

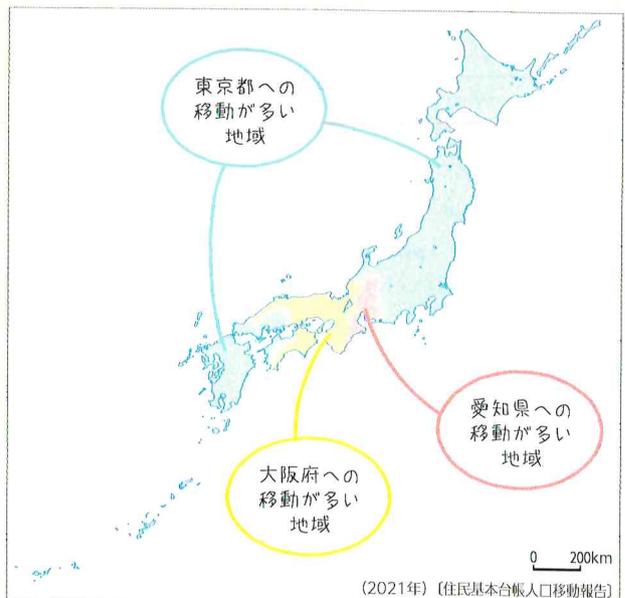
海上輸送と航空輸送で運ばれる貨物の特徴を、図3・4で確認しよう。

交通網や通信網の発達によって生じた変化について説明しよう。

※観測している桜の種類は、ソメイヨシノ、ヒカンザクラ、エゾヤマザクラ。



↑1 自然環境を視点にした地域区分の例 2011～2020年の桜の平均開花時期で地域区分をしています。



↑2 人口を視点にした地域区分の例 各道府県から、東京都・大阪府・愛知県への人口移動数で地域区分をしています。

10 日本の地域区分

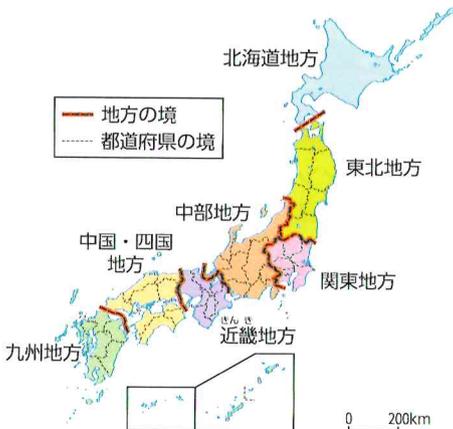
2章の問い 日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。



いくつかの視点をもとに日本を区分すると、どのような特色がみえてくるのだろうか。

地域区分から特色をつかむ

ある地域を、共通性や関連性などをもとに、いくつかのまとまりに分けることを地域区分といいます。これまで学習してきた日本の自然環境や人口、産業、交通・通信など、それぞれの視点から主題図をつくり、日本を地域区分してみると、地域どうしの違いや共通性が浮かび上がります。例えば、桜の開花時期に着目して区分すると、開花時期の違いは、緯度や高度などによる気温の差が関係していることが分かります。また、人口移動に着目して区分すると、大阪府や愛知県はそれぞれの周辺との結びつきが強いのに対して、東京都は九州や北海道などとも広く結びついていることが分かります。このように地域区分を行うことは、日本全体の特色をつかむことにつながります。



↑3 7地方に区分した日本

日本の7地方区分の各地方名とその範囲を、図3で確認しよう。

地域区分によってみてきた日本の特色を一つ、説明しよう。

さまざまな地域区分

地理の学習では、地域の特色をつかみやすくするため、日本を九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道に分ける、7地方区分がよく使われます。また、これよりもおおまかに西日本・東日本・北海道と区分したり、山陰・山陽のように、一つの地方をより細かく区分したりすることもあります。このように、目的や基準によって、地域はさまざまな数や大きさに区分することができます。



ワークシートなど

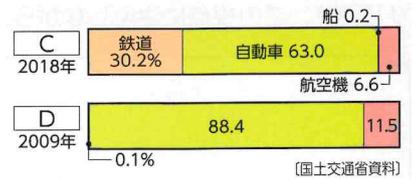
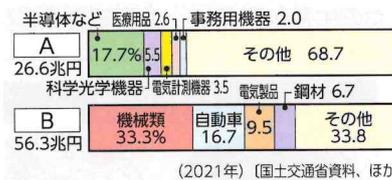
2章の問い 見方・考え方 分布や地域の特徴(→巻頭8)

日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

章の振り返り1 学んだことを確かめ、章の学習内容を振り返ろう

知識

- 図1のAとBは、日本の海上輸送と航空輸送のそれぞれどちらを示しているのだろうか。
- 図2のCとDは、日本とアメリカ合衆国の国内旅客輸送のそれぞれどちらを示しているのだろうか。



↑1 日本の輸送手段別輸出額の内訳

↑2 国内旅客輸送の内訳

章の振り返り2 章の問いについて、あなたの考えをまとめよう

思考・判断・表現

それぞれの視点の地図	ページと図番号
自然環境に関する地図	p.141 図6、p.142 図3、p.145 図4、p.146 図4
人口に関する地図	p.152 図2、p.152 図3
資源・エネルギーと産業に関する地図	p.154 図3、p.155 図5、p.158 図2、p.159 図5、p.160 図1
交通・通信に関する地図	p.163 図7

↑3 第3部第2章「日本の地域的特色」で取り上げた地図

- 表3のなかから地図を一つ選び、図4のように日本をいくつかの地域に区分しよう。
- 対話 ①で地域区分した地図を持ち寄り、どのような特徴に着目して地域区分を行ったのか、発表しよう。また、ほかの視点で地域区分した地図と比較し、共通点や相違点などを話し合おう。
- これまでの学習や①・②を踏まえて、章の問いに対するあなたの考えをまとめよう。

→4 p.155 図5[主な発電所の分布]をもとに地域区分した例



2章の問い

日本は、自然環境や人口、産業、交通・通信などの特徴から、どのような地域に区分できるのだろうか。

ヒント 日本は自然環境や人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信などの特徴は？

振り返り

主体的な学び

- 章の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが
 - よくできた できた あまりできなかった →よくできた点や改善したい点などを書き出そう。
- 章の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。